

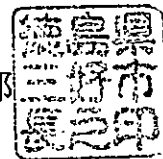


三好市建部第1号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

三好市長 俵 徹太郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出依頼について
(回答)

国土交通省におかれましては、日頃より三好市の行政に対しまして
格段のご高配を賜っています事に心より御礼申し上げます。
標記の件に関しまして、別紙により回答させていただきます。
今後共今まで同様よろしくお願い申し上げます。

・徳島県的高速道路の整備状況は、全国的高速道路の82%が4車線以上で供用開始がされている中、暫定2車線区間が多いなどまだまだ不十分な状況である。特に徳島自動車道は、一部区間では追い越し車線等の付加車線(ゆずり車線)があるものの全線が暫定2車線となっている。この徳島県北部を東西に結ぶ徳島自動車道は、沿線地域にとっては豊富な観光資源、企業の立地等地域の活力を相乗的に引き起こす基盤であり、救急医療や異常気象時の緊急輸送路の確保などの危機管理面においても重要な役割を担っており、必要不可欠な道路であります

こうしたことから、徳島自動車道の整備については、利用者がより安全に、より快適に、より速く通行するためにも追い越し車線等の付加車線の整備からでも早期4車線化を要望します。

・徳島県も含め地方の財政力は非常に厳しいものがあり、直轄事業の県負担が重くのしかかっており、国道・県道の改良・改修がなかなか出来ない状況にあります。

ついては、地方負担の軽減を行う必要があると考えます。また、国道、県道においても地形の急峻な場所等においては、1.5車線化等による生活道路の早期整備を図ることが必要と考えます。

・広大な面積(722km²)を有する三好市においては、市道だけでも1,400kmを抱えておる中で、橋梁などの道路施設の老朽化も進んでおり、その維持管理の費用も増加の傾向にあります。本市においては、これまで道路特定財源に加え、多額の一般財源を充当し、必要な道路整備や維持管理を進めてきたにもかかわらず、急峻な地形上の制約から、道路整備は依然として非常に遅れており、都市部との地域間格差が縮まっていない状況にあります。

このようなことから、道路特定財源の一般財源化については、極めて厳しい地方財政や地方の遅れている道路整備の状況、国が進めております地域間格差是正の観点からも、地方にとって真に必要な道路整備が着実に進められるよう、地方への重点配分を図るべきだと考えます。特に、地方の道路整備を支えている「地方道路整備臨時交付金事業」を存続・拡充し、これまで以上に地方への優先確保が必要と考えます。

・三好市においては、観光をリーディング産業と位置付け、様々な事業を展開しています。観光地等における公共工事については、割高とはなりますが、環境や景観に配慮することから、地場産の木材を活用し、ガードレールやガードパイプ、看板を設置しています。

このようなことから、環境や景観対策に係る予算について、確保・充実を要望します。

②-1 地域の現状と抱える課題

徳島県 三好市

○現状

三好市は、平成18年3月1日に6町村が合併した市で、徳島県の最西部に位置し、香川・愛媛・高知の3県に面した、四国で最大の面積、約722平方キロメートルの行政エリアを有する市であり、重要幹線の国道32号、国道192号が交わる交通の要衝の街であります。

また当市は、四国山地の山々に囲まれ、日本三大奇橋の一つである「祖谷のかずら橋」、自然美あふれる「大歩危・小歩危」また、体験型レジャーとして、「吉野川でのラフティング」、冬場の「井川・腕山スキー場」その他多数の温泉施設を有する 水と緑と自然豊かな観光交流を中心とした地域であります。

現在、広大な市の住民生活基盤として、三好市内全地域をケーブルテレビネットワークで結び、「防災」「教育」「観光」「福祉」等、地域に密着した情報提供を行っています。

○課題

三好市は広大な面積の約87%が山間部を占め、中心部を吉野川が流れる複雑な地形で、少子高齢化による人口の減少、急速な過疎化による多数の限界集落を抱える市であります。

しかしながら、合併後、本市が有する多種多様な観光資源を活用した、観光交流を中心とする、地域づくりを推進してまいりましたが、「観光施設へのアクセス道路の整備の遅れ」、「徳島自動車道の4車線化の遅れ」、近畿圏と四国間の障害となっている「本四道路の高い料金」、大雨による事前通行規制での通行止めを抱える国道32号線の改良と多数の課題があります。

その他にも、2千キロを超える長大な市道と農林道・老朽化の進む多数の橋梁管理・修繕の財源の確保。

また、都会での生活圏では、多数の電車・バス等の交通機関がありますが、田舎で生活するには交通機関がほとんどなく、道路なくして生活が出来ません。

以上、都市部と田舎との地域間格差が非常に大きい現状です。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

徳島県 三好市

三好市の一体性の確保および観光産業の戦略的取り組みを推進するための交通ネットワーク形成に努め、主要幹線道路や生活関連道路の整備拡充を図ります。

主要幹線道路については、中心街地と山間部を結ぶアクセス道路や近隣の地域間を結ぶ道路の強化に努め、生活関連道路については、交通安全や災害対策などに配慮した道路環境の整備を進めます。

徳島自動車道、国道32号、192号、319号、438号、439号、県道および主要地方道の整備をはじめ、新猪鼻道路、大歩危トンネルの開通については関係機関との連携のもと積極的に事業推進を図ります。

また、市道及び農林道の整備と適正な維持管理を行い、安全で美しい道づくりを推進します。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

徳島県三好市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・滞在型観光の推進 ・防災力の強化 交通安全対策 ・地域活動や利便性の向上	・剣山周遊ルート of 整備 （現在は大型車の周遊不可） ・四国横断自動車道（徳島道）の4車線化、スマートICの設置 ・本四道路の料金引き下げ ・道の駅の登録 ・一般国道32号猪ノ鼻道路 事前通行規制区間 ・一般国道32号改築防災 事前通行規制（3回、38時間：H17～19） ・1.5車線整備や対向車接近表示システム等ローカルルールの適用 ・一般国道32号猪ノ鼻道路の整備 ・集落と旧役場等を連絡する道路整備	・にし阿波観光圏の推進（入り込み客の増加） ・地域間交流の拡大 ・就労機会の増加 ・過疎地域の生活基盤の確保 ・事前通行規制区間の解除 ・通勤・通学の安全性・確実性の向上 ・安全・安心な生活圏の確保 ・通勤圏の拡大（定住促進） ・安全・安心な生活圏の確保 ・過疎地域の生活基盤の確保 ・経済活動の活性化	